Vewspaper

6

物事をとらえる力をつ

に広がるよう、それぞれのみが点から線に、線から面します。NIEの取り組れていることに敬意を表ざまな実践が積み重ねら

習意欲を高め、

広い視野か

をうれしく思います。

た授業が増えていること新聞を教材として活用し、NIEの実践が広がり、

ニュ

]

ス発表」・スクラッの会での「今日の

り

プノートづくり等々、

さま

業が増えていること

教育に新聞を

名乗りを上げている。 化する見通しだけに、

る2006年度のNIE実践校に2月20日現在、十数校が候補として初

候補校が出そろう3月上旬には、

選定作業が本格

V)

応募を希望する学校は早めの申し込みが望まし

海道NIE推進協議会(会長・山

田家正小樽商大名誉教授)が募集す

新年度実践校

札幌市中央区大通西3丁目6北海道新聞社内 〒 060-8711 TEL 011-210-5802 FAX011-210-5826

北海道NIE推進協議会

定数额 维智

Ш

市立緑が丘

一小教頭

前講座を活用した新聞作解の学年黒板への掲示・出君の広場」への投稿・大図 です。全道各地で「みらい生徒にとって重要なこと けることは、 現在の児童・

Education

師の人数によって異な で提供される。 NIEに取り組む。提供期

―7紙が一定期間、無地域で購読できる新聞 NIE実践校には、 上の「B型」は同4カ月、には年間2カ月、3人以には年間2カ月、3人以の「A型」の学校 各紙が配達され、 して2年間で実践校は終 原則と

継続校も3月中に手続きを 月に発行元の新聞社の本の購読も可能だが、同じ英字紙や小中学生新聞 了する。

せ全国最多の4校が認定 NIE実践校は本年度、 紙と併読はできない。 された。

の実績に応じ北海道に与数が見直され、これまで府県の全国枠割り当て校 なっている。
分の特別枠が保留扱いと えられてきたプラス3校

び特別枠が戻される可能校に達しない場合は、再月の時点で目標の500度は476校)が今年4 性もある。 全国の実践校数 (05年

団に推薦するために実践があるため新規校の募集、があるため新規校の募集である。 こうした流動的な要素

型の新聞社や通信社で組 問題の新聞社や通信社で組 自主財源による北海道独 を合わせたも のだ。

学びあう楽しさ

210·5802\\cdots E推進協議会☎011 い合わせは、北海道NI

中で応募を取り下げるには絞り込む。ただ、途 ぎりまで受け付けは続け ケースなどもあり、ぎり には絞り込む。 の候 |補を3月下旬まで

望する学校は、3月中旬 供が可能。5月開始を希見いて5月からの新聞提 ず、3月下旬までにあら出する必要がある。出する必要がある。出する必要がある。出する必要がある。 年度の新規校)は、最もが、2年目の実践校(本が、2年目の実践校(本新規校への提供開始は しなければならな ためて参加申請書を提 実践校の申し込みや問 たとなる 本 ŧ

と 0) 来事・生活文化を学ぶこ)重要性を肌で感じ な P I S A (学習

ぇ

いこなしていく実践者がを「生きた教材」として使る力を育てるために、新聞のごとを多角的にとらえ たいものです。 がら新聞を活用していき 批判的に読む眼も育てな して有効な情報源です。意識を喚起させる教材と感や親近感を持たせ、問題 学年の発達段階に応じて、 新聞は、児童・生徒に現実 増えることを期待します。 関することを発見する。| の意味調べ。"さんずい"

していくために方策を練地域で実践の輪を大き、 るところです。 らし地

前、

き

でいた私の心を爽やかな供の姿が浮かび、よどん と楽しく学習している子 引き方を教え共学、楽修

4年生が3年生に辞書の

の姿があった▼生き生き

外日本

がの日切極す情ま がら、季節の話題や郷土のの国のニュースに触れな切です。現地の新聞も毎切です。現地の新聞も毎切です。現地の新聞も毎様が、新聞のもつ良さを積すが、新聞のもつ良さを積 イン 夕 1 ネ ツ で

離れの現状も踏まえて、も力の低下や各家庭の新聞到達度調査)における読解

4年生は辞書を引き漢字

などの漢字を集め、

記事を生かすことができまな教育活動の中で新聞

ると、学校が悪いと「批 地解しい問題を抱え込み は難しい問題を抱え込み 上・日曜日も削って子供 たちのために頑張ってい が学校、池田圭子先生が、 地学校、池田圭子先生が、 で幕別町糠内 で幕別町糠内 覚で、さんずい、にくづした。3年生はゲーム感

おきなさいよ」という。 かつての日本には金のためではなく弱者救済を信 思想がしっかりと根付い 思想がしっかりと根付い 彼女が経営する雑貨店で、器をも」を思い浮かべる。 をみて周りは「もらって取った。返しに行く彼女集金したお金を多く受け 伐とした事件が させた。新年も せる事件が起き ラル・倫理を麻痺さ の命を奪 う幼

^成果を見極める評価方

|とを私見として2つ述べ ります。今回は、今後の 現在の学校で3校目にな う10年以上がすぎました。 ポイントになりそうなこ NIEの方向性について

2006 訪れると、私まを思った。 われる時が遅かれ早かれ。向 かんがどうかが厳しく問し 上の取り組みが 法の確立〉

る時間や費用に見合う成います。取り組みにかか いでしょうか。いでしながあるのではなを収集分析して蓄積して に変容したのかのデータみ後で子どもがどのよう IE取り組み前、取り組を全国共通で作成し、N

できるのでしょうか。学らんを教室で補うことがす。果たして、家庭の団 ぎないでしょうか。校に対して期待が大きす

ブルを囲んで食

回数は確実に減っていま 事をする 年上の家の人のコメントス発表の中で、生徒より 要になってくるのではな聞を普及させる工夫も必 いでしょうか。私は、 を言わせるようにしてい 生

学校のPTA、地域のチャーセンターの講座、町内会、敬老会、カル Eの取り組みとして今後 大人への働きかけもNI 検討に値するのではない ロータリークラブなど、 です。企業の社員研修、 定したものではないはずのは、なにも子どもに限 「教育に新聞を」という

ということです。子ども果がでているのかどうか 向けや教職員向けの「評 価シート」のようなもの

柏札 中幌 教市 諭立

事を熱心に読み、自分の時に父が新聞を広げて読時に父が新聞を広げて読持ったのは、朝食、夕食 感想を話してくれました。 私自身、新聞に興味を〈家庭の団らんの変化〉 家族が同時にテー

基 理 ち

るか、つまり、大人に新いかに子どもたちにみせが新聞を読んでいる姿をか。そう考えると、大人 とが効果的なのでしょう 読んでいる姿をみせるこ 学級担任が新聞を広げて それとも、 食時 間に

いました。2年目の本年は複数の教科で実践を行践校に指定され、1年目 **垣定され、1年目は昨年度NIE実**

介させていただきます。んな本校の取り組みを紹いと思っております。そ 閲覧でき 後に図書室の新聞ラック きるように昼休みと放課 目は生徒が自

います。また、実施1年利用し閲覧してもらって



用は難しくなっています 1年目ほどの積極的な活

学級減、教員減、

が、

新聞を有効に活用す

る方策を検討していきた

にとじて利用していまし 由に閲覧で

①閲覧コーナーの設置

職員が自由に

本校では「総合的な学の利用をは出来ていません。は出来ていません。

シップを実施しています習の時間」でインターン 記事を活用するなどの実が、その導入として新聞

業を展開しました。「世し各地の話題をもとに授し各地の話題をもとに授しる。」 おいて、 動機付け等を行いました。界史」では授業の導入の 現」で新聞記事の要約、 国語科では、「国語表 2年目の今年は1週間

報科・商業科・理科・家田語科・社会科を中心国語科・社会科を中心といいました。 社会科では「地理」にを時折活用してきました。 庭科・保健体育科で新聞 地理」 書を行いました。この実また、新聞の投書欄を活また、新聞の投書欄を活また、新聞の投書欄を活また。 書が採用されています。が2回、生徒が2回、投していまでに教職員

極的に活用しました。特 を生の意見は「同世代の あり、普段購読が難しい あり、普段購読が難しい を生の意見も使用すること ができました。 ができました。 学級通信を毎日発行して いる教員が新聞記事を積 ④学級通信での利用 1年目、2年目とも、

経って

大笑いした。

どが新聞社の取材を受け員制度の「出前授業」な プ、札幌地検による裁判の授業やインターンシッ年生の選択科目「中国語」 た記事も活用しています ており、 ⑤出前授業などの活用 本校はこれまでに、 新聞に掲載され 3

> どの文学書を片っ端から本棚から引っ張り本好きの姉が買った島崎藤村や夏目漱石なたからだ。途中で受験勉強に飽きてしまい、 机に向かっていた。文学小説を乱読していしかし、案に相違してその後も深夜まで の高学年まで漫画ばかり読んでいた。6年奴は頭が悪い」であった。その息子は小学校明治生まれの父の口癖は「活字を読まない と高をくくっていた。 なった。口の悪い兄は「どうせ三日坊主さ」 気になり、夜遅くまで机に向かうように中学2年になると、さすがに高校受験が ソンクルーソー」など冒険小説に夢中で、父生になっても「十五少年漂流記」や「ロビン はさぞかし気を揉んでいたことであろう。



支社長 (社長 小栗正徳)時事通信社札幌

てから同窓会で友人から聞いて思わず社長 小栗正徳> ようだ。この話社長 と誤解していた時事通信社札幌 と誤解していた時事通信社札幌 とがり勉タイプ くまでがんばっては「あいつも夜遅いるのを見た友人眠たい目を擦って 翌日、授業中に出して読んでいた。

事を示したり、その問題を特集した週刊誌科が質問をすると、説明するより新聞の記時から政治や社会問題に興味を持っていたうに工夫を凝らしていたようだ。中学生の今思うと父は息子が活字に興味を持つよ

マスコミの世界に身を置いていられるのは や家に持ち帰った。 り強嫌いの私が何とか大学を卒業して、 で家に持ち帰った。 はない。本を読んで聞かせたが、その成果は定かで本を読んで聞かせたが、その成果は定かでにも父と同じ思いで就寝時に布団の中で絵

札,幌

た新聞記事を子どもが見せて聞!」と言ってノートに貼っ「先生、お父さんが出た新 抜き、

ばかりだった。る活動をした

という単元で新聞記事を切り くれた。ちょうど国語の時間 に「情報ノートをつくろう」 スクラップノートを作

佐 藤 兀昭教諭

ラップノート」作りを始めた。抜きをノートに貼る「スク

に毎日子どもたちが、自分

この学習をきっかけ

で気になった新聞記事の切り

の修

岡 文佳 教

高

この「現代社会」、選択科目 本校では、 「政治経済」「時事問題」 (現代社会の授業でで新聞を活用しました。 3年生全員必

株式会社に

諭

では、 一ついての学習の際に、株の で確認し、その後はグ で確認し、その後はグ されている株価の見方を授 されている株価の見方を授 されている株価の見方を授 されている株価の見方を授 で確認し、その後はグ ループごとに新聞コーナー に来て新聞をチェック。株 価の確認や、売買の意志決 でかっプが最も資産を増やせ

済活動が自分たちの生活にいることを知り、企業の経スと株価の動きが連動して たかを競いました。 ニュー

の経緯をたどること、そのを活用しました。ニュースを持ってもらいたいと新聞を活み、日本だ期的に新聞を読み、日本だ期のに新聞を表した。ニュースを活用しました。ニュースを活用しました。

ようでした。

も影響があると感じられた

要因や影響を理解すること



新聞を活用 した授業

、作って発表

には、記事の紹介に加え記事紹介だけであったが、2学期いる。最初は記事の見出しのくり、新聞記事の紹介をして 5年生とは Hにそって新聞記事の内容をを読んだ感想、そして5W1 日のニュース」コーナーをつ ラップノート」を活用し「今 う子がほとんどだ。 はない。この活動を通して にとって新聞は身近な存在で 「初めて新聞を読んだ」と言 そこで朝の会では、 いえ、子どもたち 「スク

朝の会でスクラップノート作り 最初の段階で導入として新 身近に感じてもらうために、 的に加えていった。 子どもたちにもっと新聞

紹介する活動へと内容を発 学習を通してさらに新聞を身帯座なども行った。こうしたべ、新聞社の記者による出前る情報」では、新聞について調また、社会科「くらしを支え 上がる。 労や工夫が理解できただろう。近に感じ、新聞を作る側の苦 から せるか」と競争させると盛り

身に力がついていないので最活用していいのか、まだ私自校となり、どのように新聞を本年度初めてNIEの実践

で行い、「どの班がより多く探遊びも取り入れた。班対抗戦し」などのゲーム的な要素の

子どもたちに「読む、から始めた。
にある過去の優れ るためには、新聞は資料とし 話す」という基礎学力をつけ て、教材として優れていると

にするようになった。まだ取り、記事を読んでいる姿を目り、記事を読んでいる姿を目り、記事を読んでいる姿を目れる新聞を子どもたちが手に取教室の「新聞コーナー」にあ考えている。3学期になり、

気がする。ちに力がついてきているちに力がついてきているり組んだばかりだ

ながり

生徒にも見てもらうようにいう一連の流れを2回行い、最後には、1年間の成果を扇下に掲示し、他コースののようには、1年間の成果をある。と るテーマについては、調べ、を大切にし、興味・関心のあ しました。 その内容を発表しました。 新聞を置くスペー

施設・設備の問題や、新聞をある、スクラップするにもっかった面がありました。しかった面がありました。しかった面がありました。しかは、日頃読まない部分にまで目を通すことや、友人が興味を持つ記事に意外性を感じて自分自身の興味のであると、社会と だてとなったようです。 自 分のつながりを感じる手 なかなか何紙も広げて利聞を置くスペースがな

て、新聞記事に書かれた文く見ているニュースについまた、テレビでなんとな くではなく、理解し、自分章を読むことで、なんとな はどう思うかを考えるよ

N I E 推

進組織の代表が

堂に会する本年度の全国

事務局

長会

が提案された。

が連携

強化

など

限

しかし、本州では昨阪定して実施されて

れている

田

[晃子教諭

始まった「すべての教室一方、3年ほど前から

協議会の事務局長らが、学校へ のあり方などを意見交換した。

の新聞提供事業をはじめとする活動 36都道府県から参加したNIE推進

九州ブロックとい 活性化策として、

東北や いった近

5校のフォローアップに一了した札幌地区の実践校道では新聞提供期間が終に新聞を」運動は、北海

ており、

めるなど、

混乱も広が

くりの

必要性が指 新たなルール

摘さ

づ

観光

泉記

が1月25日に東京で開かれ、

近隣県の連携求める声も

こと。「笛を吹くのが新病されたのは、推進組織摘されたのは、推進組織病さや、多忙な教師への弱さや、多忙な教師への弱さや、多忙な教師への弱さや、多忙な教師へのは、推進組織 ずれ行き詰まる「推進組そんな護送船団方式はい間社で、踊るのは先生。 戦する府県が多い。 目標の校数に達せずに苦 や広島など一部を除くと、 の見直しが必要」など び 一部を除くと、ひは、北海道

た帯広・十勝セミナー十勝毎日新聞社で開か

NIEの

全国事務局長会議

がは、 教育研究会との共催)に れた第4回NIE帯広・十勝毎日新聞社で開か が2月4日と18日に、それぞれ帯広と室蘭で開 勝セミナー 北海道NIE推進協議会主催のNIEセミナー 新聞を活用した授業などの実践発表があった。1月4日と18日に、それぞれ帯広と室蘭で開か

の仲間を探す漢字学習をある文字から、同じ部首教論は、新聞記事の中に 年生を受け持つ池田幕別町糠内小で3 かした。学校関係者ら約30人 上級生が下級生を 宝子

る N I E 」 と 題 し 提 くくる形で、「心に触れが長年の教員生活を締め 蘭市東中の宮重徹三教諭 振開 版セミナーでは、 開かれた第3回室 北海道新聞室蘭 聞室蘭支社 回室蘭• まず室 蘭 言。

対抗の文字探し競争やコ藤元昭教諭は、グループ藤元昭教諭は、グループ 使って楽しみながら基礎ンガの活用など、新聞を

「新聞活用では何より生 の尊重と平和教育

0) 視

一単なる情報の 小林博幸教論は、 小本博幸教論は、 小本はではした 組みを紹介。 全道規模の ŋ マ

丘践 佐 の間にか6年になったが 礼を申し上げたい。 6年間で大きく変化した Eとの付き合いは、 取材から始まったNI

いたみなさまに心よりおこれまでご協力をいただ るのは今号が最後となる いたみなさまに心より Ê 私 事で恐縮だが、 0)

「女性 |天皇| の記事をも N I E Ħ や男 村 をの を L

めるなど、混乱も広がっしに対象校をどんどん決組織がNIEとの調整なしたがし、本州では販売店 うになった」と、 しずつ新聞が読まれるよ とに「自分らしさ」 の手ごたえを語った。 て 女問題を話し合ったり 白樺学園高校の いる実践に触れ、「少

2地区で セミナー

まっ 生徒 クラス討論も活発になり、 載されたのをきっかけに、自分や級友の投稿が掲 ミュニケー たことなどを紹介 同 ーケーションが変の土や教師とのこ 深 コ

指導するなど、

広

校になった帯広市南町中本年度からNIE実践

が

複式学級

報告された。

(十勝新聞

力を込めた。 続いて、 3人が実践

いつ

校になった室蘭市桜が本年度からNIE実 表を行った。

プ 全国一になったこ風景が2つある。 の盛り上がり。

ても、 E全国大会の札幌開催 大きな弾みになった。 徴される北海道のNIE 2002年のNI たことに象実践校数が 何と言っ が

取っていない学校も珍し近い家庭が全く新聞をが全く新聞を いさを、 くない。 す」との嘆きが聞 の新聞を持って来て、 んて言うのはタ NIEの可 もうひとつは、 あらためて感じて 先生からは 能性と厳 予想を ブー かれる。 でな家 L を分

全国事務局長会議で異彩を放った

のが、山口県NIE推進協議会。他

の推進組織が新聞社に支えられてい る中で同県だけは1995年以来、教育 行政機関の県教委に事務局が置かれ

ている。地元紙にNIEの事務局を 引き受ける余力がないことがその理

とくに、今回の全国会議では、同県 の藤井俊彦教育長が県議の質問に答え、 県議会の場で新聞社に代わりNIEの

意義を説いていることが紹介され、注

藤井教育長の答弁要旨は次の通り。

効な教材。思考力や表現力などの育成

にもつながる。今後、新聞を活用した 効果的な授業づくりの研修を行い、 達段階に即した活用の仕方について研

事務局長会議に出席した野口政吾指

導主事によると、NIE関連行事への

教師の参加は、他県に比べ公務扱いに

なりやすいようだが、いずれ新聞社側

に事務局を移管することも視野に入れ

「新聞は、子どもたちが活字文化に親 社会への関心を高めるために有

由だ。

目を集めた。

究を進める」

ているという。

北海道新聞社で開催された室蘭

自分たちの思 行錯誤しなが

人に伝える

受け手では

ら試だ

振セミナー

ナーを設置したり、 強調した。
用を、指導 新聞作 虻田

指導者の立場 :りのさまざまな 地歷: がら

ント開催などを提言した外国人観光客向けのイベの活性化策を話し合い、 ことを報告。 事をヒントに洞爺湖温 の授業で、 の会話が弾 、生徒たちがは田高校の齋藤宮 N I E 新聞 「新聞から んでほ 0)

V)

ベ